

本論文の目的

現行の公益法人制度改革は日本相撲協会にとって非常に厳しいものである。連続する不祥事も相俟って、「存続の危機」と言ってもいい。

そこで本論文の目的を以下に設定する。

- ① 大相撲が、250年以上の長い歴史を「文化・伝統」「処世・ビジネス」「改革」この3つのキーワードを駆使し、いかにして「存続」してきたかを明らかにする。
- ② 協会内部でどのような権益構造が形成されているのかを明らかにする。
- ③ 1, 2の目的を果たした上で、公益法人制度改革が、どのような意味を持つのかを検討し、これらに対する提言を行う。

本文

I. 大相撲以前の相撲

本章では、大相撲の施した「伝統創出」において、その故実（由緒）を求めた「相撲節会」と「神事相撲」の概要、江戸勸進相撲（大相撲）に至るまでの流れを明らかにした。

II. 江戸勸進相撲

江戸時代の大相撲は相撲節会と神事相撲に故実を求め、あるいは全くの創作により「伝統創出」を施した。その結果、社会的地位・興行的価値の向上を果たすことに成功した。この大相撲の纏った「文化・伝統」が、250年以上存続できた要因の一つである。

17世紀半ば、相撲協会の前身である相撲会所が成立した。その組織は一部の首脳陣による独裁的な体制であり、明治以降、数度の労働闘争を必要とする。江戸時代において力士の経済面を支えたのは、大名による力士抱え（雇用）であった。

III. 明治の大相撲

明治維新後の相撲廃止論により大相撲は危機に直面したが、好角政治家の援助や、社会奉仕活動、そして根強い活動によって存続した。明治10年代に入ると社会の変化により、相撲廃止論も消えていった。

幕藩体制の崩壊により大名への経済的依存体質を改める必要が出てきた。そのため一門が結束し地方巡業を積極的に行い、経済的自立を目指した。その後、昭和40年に一門による巡業は廃止され結束は弱まったが、今なお役員・理事選挙において派閥を形成している。

明治42年、「相撲は日本の国技である」と協会が主張する所以となった「国技館」が開館した。これ以上ないマーケティング戦略である。

明治9、44年に2度労働闘争が起きた。しかし根本的な改革には至らず、その後も闘争を必要とした。

IV. 大正、戦前・戦中昭和の大相撲

大正14年末、「財団法人大日本角力協会」の設立が認可された。この認可を助けたのは、戦前の軍国体制と「相撲は国技」の言説であったろう。

大正12年と昭和7年に再び労働闘争が起きた。昭和7年の春秋園事件は過去最大のもので、一時的に脱退したものは幕内・十両合わせた62人中の51人に及んだ。しかしこの事件によっても根本的な改革は図られなかった。

戦時中、双葉山の圧倒的な強さに「無敵皇軍」が重ねられ、双葉山は国家、国民にとって非常に大きな存在となった。また国策・武道として相撲が奨励され、野球は適正遊戯として弾圧された。その結果、大相撲はかつてない人気を博した。

V. 戦後昭和の大相撲

敗戦後、柔道・剣道などの「武道」がGHQにより禁止された際、相撲は禁止対象から外された。相撲に対してGHQがそれほど危険性を感じなかったこともあるだろうが、「武道」から一転して「相撲はスポーツである」と主張する、「融通無碍」の性質をもって大相撲は存続した。その転換はあったものの、その後の動乱期を存続できたのは、大相撲自身の力によるものであろう。

昭和32年、国会で財団法人としての相撲協会の在り方が問題とされた。これにより「力士・行司・年寄の月給制」が導入された。国家の介入を以って、明治以来の労働闘争が完結された。

VI. 年寄名跡制度、相撲部屋と一門系統

本章では内部の権益構造を考察し、歴史考察を補完した。

年寄名跡とは現役引退後65歳の定年まで協会に残れる資格のことで、数千万から数億円すると言われ、その数は105に限られている。そこには名跡数の慢性的不足、継承における税制的・倫理的問題など欠陥が多く存在する。

VII. 現在これからの大相撲に対する提言

新制度の公益財団法人の認可を受けるためには、協会運営のトップである「理事会」の上に、外部の人間から成る「評議員会」を置かなければならない。その評議員が理事を選任・解任する。この事は一門の意味を消失させ（伝統は残ると思うが）、さらに評議員に年寄名跡制度の問題を指摘されたら、既得権益層にとっては大問題である。しかしその制度は構造的に欠陥が多い。

現在、経済・経営の専門家が多数参加し、移行へ向けた活動を行っている。筆者は、150年以上続いた協会の権益構造が根本的に変わることになると考えている。それを拒めば末永い繁栄は望めない。既得権益層が利害を度外視し、250年以上存続してきた大相撲を、さらに50年、100年と存続させる可能性のある道を選択すべきである。